

Title	第五十九巻第七号-第十二号総目次：昭和四十一年下半期
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.12 (1966. 12) ,p.1- 4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19661201-0140">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19661201-0140</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田学会雑誌 第五十九巻 第七号、第十二号 総目次 (昭和四十一年下半期)

論 説

題名	著者	号	頁	通頁
財政学方法論に関連する問題——カール・メンガーおよび岡野鑑記	高木寿一	七	一	六六五
博士の解釈に対する疑問の提出	飯田鼎	七	二五	六八九
独占資本主義段階と社会政策研究——大河内一男教授還暦記念論文集「社会政策学の基本問題」による	飯田鼎	七	二五	六八九
「後進国における国家資本主義」について——社会主義経済移行の「物質的基礎」としての「国家独占資本主義」と国家資本主義	平野絢子	七	五二	七二六
立地過程の反応分析——立地行動に関する一仮説——	高橋潤二郎	七	七四	七三八
形成期のマルクスとその周辺——その一、「プロレタリア」観——	平井新	八	一	八〇三
社会政策学研究と労働経済論——隅谷三喜男、氏原正治郎兩教授の批判——	飯田鼎	八	三四	八三六
産業社会学の動向とその課題	青沼吉松	九	一	九一一
ウィクス——ヴィラの転換について	宇尾野久	九	一九	九二九
規模の経済性とレオンティエフ投入係数の変化	尾崎巖	九	四二	九五二
日本資本主義の再生産構造分析試論II——昭和三〇年以降の拡大再生産過程(2)——	井村喜代子	十	一	一〇二五
わが国主要寡占産業における競争と独占(一)	植草益	十	九九	一一二三
「世界恐慌期におけるドイツの財政過程」分析・序説	大島通義	十二	一	一三六五
ロバート・オウエンとウィリアム・ゴドウィン(下)	白井厚	十二	二一	一三八五
ルソー「社会契約論」の理論構造と資本主義(上)	野地洋行	十二	四五	一四〇九

日本近代社会経済思想史研究の方法と対象にかんする若干の考察(一)  
——丸山思想史学の批判的再評価——

田中 明

十二 七六一—四四〇

小泉信三博士追悼特集

〔追悼の辞〕

小泉信三君追想

高橋誠一郎

十一 一一一—一七二

〔論 説〕

小泉経済学とマルクス労働価値説

伊東 岱吉

十一 二六一—一九六

小泉先生と理論経済学

寺尾 琢磨

十一 四八—二一八

社会思想者としての小泉信三先生

平井 新

十一 七〇—二四〇

ソ連の中央集権的計画経済と利潤率中心の企業経営の体制

気賀 健三

十一 一〇四—二七四

小泉先生と唯物史観

小竹 豊治

十一 一三五—三〇五

小泉信三博士年譜および著作目録

白井 厚

十一 一五七—三二七

資料・研究ノート

「賃労働の理論」への疑問——隅谷三喜男著『労働経済論』を中心に——

小松 隆二

七 一〇四—七六八

回帰線導出の方法(一)

佐藤 保

八 五五—八五七

「体化された」技術進歩に関する諸論点

田中 宏

八 七四—八七六

回帰線導出の方法(二)

佐藤 保

九 八四—九九四

第一インターナショナル研究にかんする最近の動向

飯田 鼎

十二 一〇三—一四六七

学 界 展 望

貿易史の展開

渡辺 國廣

八 八五—八八七

書 評

ソロ著『フランス農業史』

渡辺 國廣

七 一一七—七八一

藤田 晴著『財政政策の理論』

飯野 靖四

七 一一二—七八六

デューゼンベリ著『景気循環と経済成長』

田 中 宏

七 一二七—七九一

馬場 正雄 訳

加藤 寛

八 九三—八九五

安平哲二著『米ソ経済成長の比較』

丹羽 春喜著『ソ連計画経済の研究』

香掛 暁

八 九七—八九九

宮川公男著『計量経済学入門』

飯田 鼎

九 九九—一〇〇九

戸塚秀夫著『イギリス工場法成立史論——社会政策論の歴史的再構成』

渡辺 國廣

九 一〇三—一〇一三

M・ガロ『十八世紀ガティヌにおける土地制度と農民』

飯田 鼎

十 一一二—一一四六

良知 力著『ドイツ社会思想史研究』

飯田 裕康

十 一二六—一一五〇

P・A・パラン著『独占資本——アメリカ経済及び社会秩序にかんする試論』

玉井 茂

十二 一一六—一四八〇

飯田鼎著『マルクス主義における革命と改良』

矢崎 武夫

十二 一二〇—一四八四

安川正彬著『人口の経済学』

新 刊 紹 介

田中敏弘著『マンデヴィルの社会・経済思想——イギリス十八世紀初期社会・経済思想』

飯田 鼎

七 一四三—七九八

原 覚天編『経済援助の研究』

深海 博明

七 一三五—七九九

三田学会雑誌 総目次

隅谷三喜男著『日本労働運動史』	小松隆二	七一三	八〇〇
南亮三郎著『マルサス評伝——その生誕二百年の記念に——』	白井厚	七一三	八〇二
マリアンネ・ウエーバー著『マックス・ウエーバーII』	飯田鼎	八一〇	九〇五
西岡孝男著『日本の労使関係と賃金』	飯田鼎	八一〇	九〇六
J・ロビンソン著『経済学の考え方』	松浦保	八一〇	九〇七
宮崎義一訳『経済学の考え方』	宮尾尊弘	八一〇	九〇八
P・A・サムエルソン著『サムエルソン経済学(上)』	宮尾尊弘	八一〇	九〇八
大来佐武郎著『アジアの中の日本経済』	深海博明	九一〇	九〇九
西村孝夫著『インド木綿工業史』	三宅昱子	九一〇	九一〇
越智武臣著『近代英国の起源』	安元稔	九一一	九一一
天川潤次郎著『デフォール研究——資本主義経済の二源流——』	原田敏彦	九一一	九一二
J・D・チェンバース著『世界の工場——イギリス経済史二八二〇—一八八〇——』	栗本慎一郎	九一一	九一三
宮崎岸一・米川伸一訳『世界の工場——イギリス経済史二八二〇—一八八〇——』	栗本慎一郎	九一一	九一三
猪谷善一著『西洋経済史』	渡辺國廣	九一一	九一五
H・クラメル著『確率論入門』	佐藤保	九一一	九一七
大石泰彦訳『確率論入門』	佐藤保	九一一	九一七
小林端五著『工場法と労働運動』	小松隆二	九一一	九一七
サイモン・クズネツ著『戦後の経済成長』	安川正彬	九一一	九一九
山田雄三・長谷部亮一共訳『戦後の経済成長』	安川正彬	九一一	九一九
井上幸治・入交好脩編『経済史学入門』	飯田鼎	九一一	九四一
鈴木諒一著『くらしの中の物価』	佐藤保	九一一	九四二